

史料から見る 南アジア古代・中世初期史

講師 **古井 龍介** 先生
(東京大学東洋文化研究所教授)

本研究所では特別講師に古井龍介先生をお迎えし、下記の日程で講義を開催いたします。
どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(聴講無料・予約不要)

[時間] **13:20～15:00** (3時限目)

[場所] **総合仏教研究所 研究室1** (3号館4階)

- 第1回 5月 8日(水) **イントロダクション** —南アジア史の特徴と史料
- 第2回 5月22日(水) **国家の登場から帝国へ** —初期仏典とアショーカ碑文
- 第3回 6月12日(水) **遊牧勢力と海洋交易**
—外来勢力碑文・貨幣と『エリュトラ海案内記』
- 第4回 6月26日(水) **規範の形成**
—グプタ朝碑文・銅板文書とダルマシャーストラ
- 第5回 10月 9日(水) **中世初期への胎動**
—バーナ『ハルシャチャリタ』と玄奘『大唐西域記』
- 第6回 10月23日(水) **地域王権の興亡**
—プラティハーラ朝・パーラ朝・
ラーシュトラクータ朝碑文とアラビア語地理誌
- 第7回 11月 6日(水) **「カースト」と「ヒンドゥイズム」の萌芽**
—ダルマニバンダとプラーナ

【講義概要】

南アジアの歴史は、その地形と気候により形作られた多様な環境の中で、そこに到来し、根付いた様々な人間集団が、相互に作用する過程を通して編まれてきました。それを明らかにするのは南アジア内外の史料群ですが、史書と呼べるものがほぼ現存しない古代・中世初期については、頌徳碑文や銅板寄進文書などの特異な史料を読解して、歴史を再構成する必要があります。本講義では、それらの史料からどのようにして南アジア古代・中世初期の歴史変化を跡づけられるのかを、各時代の代表的史料を取り上げて論じます。なお、講師の専門に基づき、扱う時代が紀元前一千年紀半ばから紀元後十三世紀に、また地域が北インドに、それぞれ限られることをあらかじめお断りしておきます。

【問い合わせ先】 大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

https://www.tais.ac.jp/library_labo/sobutsu/

※日程等に変更が生じた場合は、随時、上記HP上にてご案内いたします。